

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 52
2020.8

TOPICS

1

優れた研究業績を有する講師・助教を対象に 「研究准教授」制度を新設し、称号付与式を開催



本学では、研究力強化促進と若手研究者育成などの観点から、優れた研究業績を有する研究者の全学を挙げた支援を実施しています。その支援のひとつとして、2018年度から「准教授」が独立した研究代表者（PI: Principal Investigator）として活躍することを促進するため、「研究教授」の称号と研究費配分や研究活動の充実などのインセンティブを付与する「研究教授」制度を実施してきました。今回、本制度を拡充し、45歳以下の講師と助教を対象としたインセンティブ制度となる「研究准教授」制度を新設。選出された8人の優れた研究業績を有する講師と助教に対して「研究准教授」の称号付与式を8月24日、本学本部棟にて行いました。称号付与式で榎野学長は「今後も研究活動に励み、ご自身の研究分野を牽引する研究者として活躍されることを期待しています」と述べ、研究准教授の称号を付与された8人を奨励しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9602.html



TOPICS

2

株式会社林原とSDGs産学パートナーシップに関する協定を締結

本学は8月19日、共同研究の実施や研究者・開発者の交流などの連携・協力を深め、グローバルな社会的課題の解決を図り、SDGs達成に貢献するため、バイオ企業の株式会社林原とSDGs産学パートナーシップに関する協定を締結しました。

同社は岡山県に本社を持ち、世界で初めて多機能糖質「トレハロース」の大量生産に成功したことで知られ、トレハロースをはじめとする機能性素材関連事業をグローバルに展開しています。この度、同社がSDGs達成への貢献を経営方針として掲げることとなったのを契機に、SDGs達成に向けた産学連携を強化するため、SDGs産学パートナーシップに関する協定を締結することとなりました。今後は、SDGs達成に資する社会課題解決のための戦略・シナリオを立案し、共同研究などを実施します。さらに、SDGs達成に貢献できる人材の育成も図ります。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9582.html



Pick up!

新生「工学部」の令和3年4月設置が文部科学省に承認されました



本学では、幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材の育成を目指し、工学部と環境理工学部を再編して新たな工学部を設置するべく、文部科学省に申請しておりました。

この度、8月21日付けで、令和3年4月からの新生「工学部」の設置が文部科学省に承認されました。

参考 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/neweng2021/>

▼新生工学部特設ページ



TOPICS

3

湧永製薬株式会社と包括的連携協定を締結

本学は8月26日、湧永製薬株式会社と包括的連携協力に関する協定を締結しました。湧永製薬株式会社は、医薬品創製から健康補助食品開発までライフサイエンス・ヘルスケア分野における事業を幅広く展開。独自製法による熟成ニンニク抽出液配合の一般用医薬品「キヨーレオピン」シリーズが世界50カ国以上で販売されるなど、多数の実績を上げています。

本協定は、先端的・独創的な研究シーズを多数保有する本学とライフサイエンス・ヘルスケア分野の開発研究で多くの実績を持つ同社が研究・教育面で相互に連携・協力することで、同分野における商品開発のための活動を加速させるとともに、学術研究の発展及び人材育成に寄与することで、世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的としています。

今後は、研究者等の相互交流を核とし、人材育成の推進及び相互支援、双方が有する研究施設・設備の共同利用、共同研究・受託研究等の実施など、ライフサイエンス・ヘルスケア分野を中心とした連携・協力を行っていきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9594.html



TOPICS

4

夏季集中講義「リミッターをかけない表現者 高畑勲の創作」をオンライン開催



8月9、10日に国吉康雄記念・美術教育研究と地域創生講座による夏季集中講義「リミッターをかけない表現者 高畑勲の創作」をオンラインで開催しました。本講義は、岡山県立美術館で開催中の高畑勲展に合わせて開講。本学の学生34人が参加し、岡山県出身の映画監督・アニメーション演出家である高畑勲氏の作品やその制作過程を、制作者側の視点やコロナ禍の今を考えながら紐解きました。講義では、“問いを立て、深掘りすること”を繰り返し実践。高畑作品の背景画の変遷から、高畑氏のphilosophyを読み解いたほか、グループディスカッションでは、ビデオ会議システム「zoom」とホワイトボードプラットフォーム「miro」を活用し、キャッチコピーを考えるなど、クリエイティブな授業が展開されました。学生からは「2日間とても充実していた」「コロナ禍の授業で一番の温かさを感じた授業だった」といった感想が挙げられました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9579.html

PRESS
RELEASE

大麦のカドミウム集積を低減する因子の発見

資源植物科学研究所の馬建鋒教授らの研究グループはオオムギのカドミウム集積を制御する因子を世界で初めて同定し、その機能を解明しました。また、この因子を導入したカドミウム低集積品種の育成に成功しました。本研究成果は8月13日、世界のトップジャーナル「Nature Food」にOnlineにて公開されました。

カドミウムは毒性の強い重金属で、イタイイタイ病を引き起こす原因物質として知られています。現在でもカドミウム汚染は様々な原因で世界的に依然として大きな問題となっています。本研究では世界の穀物生産量の4位を占めるオオムギを用いて、カドミウム集積の品種間差の要因を同定したところ、根の液胞膜に局在するカドミウム輸送体の遺伝子HvHMA3の発現を制御する因子を発見しました。これはHvHMA3の上流に挿入されたトランスポゾンで、このトランスポゾンはプロモーターの役割を果たし、HvHMA3の発現レベルを倍近く高めることができます。この因子を繰り返し交配でビールオオムギの主要品種に導入したところ、種子のカドミウム集積を大幅に減少させることができました。本研究成果は、カドミウムの少ない安全なオオムギ生産に寄与できます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id756.html

